

令和6年11月11日

芦屋市議会議長
帰山 和也 様

視察代表者 福井 美奈子

行政視察について（報告）

標記のことについて、下記のとおり実施しましたので報告します。

記

- 1 視 察 者 福井美奈子、原なつ子、岩岡りょうすけ、福井利道、
川上あさえ 計5人
- 2 視察日時 令和6年10月30日（水）～11月1日（金）[3日間]
- 3 視 察 先 ①北海道苫小牧市（10月30日）
②北海道石狩市 （10月31日）
③北海道江別市 （11月 1日）
- 4 視察項目 ①苫小牧市
福祉トイレカー「とまれっと」の導入について
②石狩市
こども未来館あいぽーとについて
③江別市
小中学校の学校選択制について
- 5 報告事項 別添のとおり

以 上

令和6年度 行政視察報告書

視 察 日 時	令和6年10月30日（水） 13時30分～15時00分
視 察 先	北海道苫小牧市
視 察 内 容	福祉トイレカー「とまレット」の導入について
視 察 目 的 (視察先選定理由)	苫小牧市が公用車として全国で初めて導入した「福祉トイレカー」（愛称：とまレット）は、車いすを利用される方々の社会参加を促進し、誰もが安心して外出できる環境を整えることを目的としている。視察では、この先進的な取組が市民生活にどのような変化や効果をもたらしているかを学び、本市の福祉施策の充実と環境整備の参考とすることを目的として選定した。
調 査 概 要	【苫小牧市】 札幌の南約50kmに位置する。人口：165,754人（令和6年9月末現在） 国際拠点港湾の「苫小牧港」と新千歳空港のダブルポートを擁する北海道の交通の要衝である。北海道を牽引する産業拠点都市として発展する一方、水産業ではホッキ貝の漁獲量日本一を誇る。登山で有名な樽前山やラムサール条約登録湿地のウトナイ湖など、自然が豊かな場所である。 【福祉トイレカー導入の背景】 苫小牧市では、長年障がい者団体から、各種イベント等に利用できる障がい者用多目的トイレの不足を指摘され、トイレ設置の要望を受けていた。しかし、各種イベント等について、それぞれ開催場所が異なることや土地の確保等、様々な課題が挙げられたが、その解決策として、今までにない機能を備え、様々な場面・場所でのバリアフリーの推進を図るために福祉トイレカーが導入された。 【福祉トイレカーについて】 ・障がい者や車いす利用者の社会参加促進に向けて、市の公用車として開発され、全国の自治体初の試みである。 ・神奈川県海老名市の民間警備会社がトラックにトイレを積んだ形で利用しており、それを参考に開発された。 ・市内で開催される祭り、音楽などの各種イベント、スポーツ大会に出動しており、トイレに不便を感じる車椅子利用者の活動範囲の拡大につながっている。 ・2018年に発災した北海道胆振東部地震の際に厚真町の避難所に出動している。 ・災害時等における緊急出動時に、運用可能な職員の育成を目的に操作説明会を開催している。 【福祉トイレカーの特徴】 ・小型貨物車程度のトラックにバイオトイレを設置している。小回りが利くので、場面・場所を選ばずに運用が可能である。 ・バイオトイレは、おがくずを使って微生物の力で排泄物を分解する。通常の仮設トイレと異なり、くみ取り処理が不要である。水を使用しないため、どこでも

	利用できる。冬場の凍結リスクが低い。 ・耐荷重性能が約300kgで安定性の高いリフトが装着されている。 ・車いすユーザーの利用を前提に、広々としたスペースが確保されている。 ・衛生機能と耐久性に優れた素材を採用し、清潔感があり、便座に座った時に位置を確認できる鏡が設置され、使いやすいよう工夫されている。 【福祉トイレカーの効果について】 ・トイレの問題で外出が制限されていた車いす利用者の外出を促進することにつながっている。 ・福祉関係の職員だけでなく、災害対応にあたる部署、イベントやインフラ等に関係する部署の職員が操作説明を受けているため、災害時への迅速な出動が可能である。福祉カー貸出しの窓口は障がい福祉課が担う。 【課題】 ・前例がなく一からの開発により、制作費は約1,860万円 ・全国初の試みにつき、国からの補助金は望めず、財源は市の福祉基金やふるさと納税を活用している。
所 （意見・感想・今後の課題等）	外出時にトイレの不便を感じる市民の声を受け、苫小牧市が前例のない福祉トイレカーの導入に挑戦し、新たな施策を展開した姿勢には深く共感する。 イベント開催時や災害時のトイレ対策は重要なことであり、本市においても車いす利用者をはじめとした障がい者への配慮は検討されるべき課題である。加えて、福祉トイレカーを公用車として導入することにより、イベント開催時のみならず、災害時にも大きな役割を果たすことが期待される。こうした配慮が、障がい者への理解を深め、地域での共感を育む貴重なきっかけとなり、話題性も高くなるのではないかな。 市役所敷地内にて福祉トイレカーを見学し、また座学での質疑応答も通して、この取組の意義や可能性について実感した。

令和 6 年度 行政視察報告書

視 察 日 時	令和 6 年 1 0 月 3 1 日（木） 1 3 時 3 0 分～ 1 5 時 0 0 分
視 察 先	北海道石狩市
視 察 内 容	こども未来館あいぽーとについて
視 察 目 的 (視察先選定理由)	北海道石狩市のこども未来館は、大型児童センターであり 0 歳から 1 8 歳までの子どもたちが誰でも自由に利用できる施設であり、子どもに関わる関係機関等と連携し、地域における子どもの健全育成の環境づくりの取組を学ぶことができる。現在において、本市だけではなく全国的に問題となっている少子化、核家族化、地域コミュニティの希薄化などの影響による子育ての支援対策の一環として知ることが重要であると考えたため。
調 査 概 要	【石狩市】 市制施行：平成 8 年 9 月 1 日 人口：5 7， 1 8 7 人（令和 6 年 9 月末日現在） こども未来館は、子どもたちの健全育成に関する総合的な機能を持つ大型児童センターであり、小学生から高校生までの児童は自由に来館し、利用することができる。 また、館内に乳幼児と保護者が集う子育てひろばや登録制の放課後児童クラブを併設している。あわせて、あそびの場でもあり、学校や家庭とは違った子どもたちが自分で楽しさを発見し成長していく場を目指している。 1 施設設置の経緯、効果 総合保健福祉センター内で開設していた市直営児童デイサービス事業の利用者の増加に伴い、同センター内で実施の児童館のスペースを使用することになったことや、建設地区の小中学校内で開設していた放課後児童クラブが、同校の特別支援学級の児童数の増加に伴い、代替施設の確保が求められていた。また、平成 2 2 年度からスタートした次世代育成支援行動計画の後期 5 か年において、子どもの居場所づくり対策としては特に中高生の居場所づくりが重要施策と位置づけられ、子どもたちが主体的に活動する場を提供する目的として、代替施設機能を併せ持った大型児童センターとしての整備に至った。 効果としては、多くの異年齢児童の居場所・活動場所・生活の場として利用されており、登校していない、またできない児童生徒の居場所としても活用されている。 2 利用者の傾向や反応 多くの異年齢児童に利用されており、日々自発的な交流が図られている。 また、総合的な放課後等対策が推進されており、指導員の見守りにより、安全で安心して利用できる施設となっている。 3 今後の課題 保護者や地域住民、また学校等の関係機関との強固な連携・協力体制を構築

	し、スクールカウンセラーや児童相談員、民生委員などと連携していく必要がある。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による開設制限により利用から遠のいた中高生の居場所づくりを行っていく。
所 (意見・感想・ 今後の課題等)	全国的にも少子化が加速する中、視察先であるこども未来館（あいぽーと）では、0歳から18歳までの異年齢の子どもたちの健全育成に特化したことにより、子育てひろばや放課後児童クラブを併設しての試みや取組など、様々な活動が提供できていることはとても素晴らしいことであると感じた。本市においても、子育てにおける不安への支援や子どもたちの居場所をどのように確保していくのか、また学校に通えない子どもたちに対し、どのように接していくべきかを子どもを持つ保護者の方々と地域に住む市民の声を聞き、子どもたちの居場所づくりについて行政機関と共に真摯に考えていきたい。

令和6年度 行政視察報告書

視 察 日 時	令和6年11月1日（金）10時00分～11時30分
視 察 先	北海道江別市
視 察 内 容	小中学校の学校選択制について
視 察 目 的 （視察先選定理由）	江別市では、通学区域の指定校以外の学校を、児童生徒と保護者の希望により選択できる「小中学校の学校選択制」を導入している。この制度により、隣接する校区の学校も選択肢に含まれ、学習環境や教育方針が子どもの特性や興味に合致する学校を選ぶことが可能となる。こうした自由な選択が、特色ある学校づくりに寄与し、地域に根ざした教育の多様化を促進すると考えられる。これからの小中学校の在り方に関する調査研究として、制度と効果を学ぶことを目的に選定した。
調 査 概 要	【江別市】 石狩平野の中央部に位置し、全般的に平坦な地勢を形成している。自然・社会条件に恵まれて昭和29年に北海道17番目の都市として市制を施行。昭和39年に道営大麻団地の造成を機に道央の広域都市圏の中核都市として進展した。 人口：118,136人（令和6年4月1日現在） 【学校選択制導入の経緯】 学校教育法施行規則の一部改正（平成15年施行）により市町村の判断で就学すべき小中学校の指定を変更できることが可能になった。 平成15年4月 導入の是非について審議され、検討が必要とされた。 平成15年9月 第1回通学審議会に「学校選択制」導入を諮問 その後、保護者2,000名にアンケートを実施 P T A・教職員組合への意見聴取、意見交換会、教育タウンミーティングの開催 平成16年2月 第10回審議会にて導入の答申 市教委が学校選択制導入の基本的な考え方を決定 市民に説明会を開催 平成16年5月 市教委で導入決定 平成17年4月 「学校選択制」実施 【導入の目的】 児童生徒と保護者の希望に応じた学校の選択機会の拡大 【審議会等での意見】 ・賛成：学校活性化の推進、選択の権利保障、通学距離、友達関係の観点から ・反対：学校間格差・序列化・地域とのつながりの希薄化、遠距離通学の身体的負担、通学時の安全面。教職員からは反発があった。

	【学校選択制について】 1 対象となる児童生徒 ① 市内の小中学校に入学する新1年生 ② 市内の小中学校に転入学する全学年の児童生徒 2 選択できる学校範囲 ・通学区域より指定する学校に隣接する学校 小学校の選択範囲：多い校区で6校 少ない校区で2校 中学校の選択範囲：多い校区で5校 少ない校区で2校 ・受入枠を設定している 多い小学校で35名、少ない小学校で4名 多い中学校で35名、少ない中学校で20名 3 許可基準 学級編成への影響や学校の受入体制等を総合的に勘案し、教育委員会が判断 4 学校選択制利用者割合の推移について 小中学校全体で、R4：6.51%、R5：6.99% R6：7.36%、R7：7.73% 【アンケート調査結果について】 ・令和3年度からの学校選択制により入学した保護者に対するアンケートでは、このまま隣接校方式でよいと回答した方が小中ともに最も多く、小学校が約85%（前回検証時81%）、中学校が約78%（前回検証時71%）で前回より上回っている。 ・「学校をどのような理由で選んだか」の問いに対して、小中学校では学習内容やクラブ活動などの「教育活動に魅力を感じたから」が最も多く（約36%）、次いで「友達が同じ学校に行くから」と「学校までの距離が近いから」が多い。 ・「学校生活の面で困っていることがあるか」の問いに対しては、「ない」が小中ともに多く、小学校が約90%、中学校が約83%であった。 【今後の課題】 江別市では、現在、小中一貫教育を進めている。義務教育9年間を同じ中学校区で過ごすことで学習意欲の向上や中1ギャップの緩和、社会性やリーダーシップの育成などの効果が期待されるが、学校選択制を進める中での課題にもなっている。小中一貫教育の趣旨やメリットの理解を促しているところだが、それを踏まえて、来年、意識調査としてアンケートを実施する予定である。
所 感 (意見・感想・今後の課題等)	江別市における学校選択制は、児童生徒や家庭の希望に基づき、個々のニーズに柔軟に対応できる施策として注目している。この制度が発足以来20年以上にわたり継続されていることに敬意を表する。担当者からの「選択肢を減らすには莫大なエネルギーがかかる」という言葉が印象的であった。児童生徒の多くが選択後の学校生活に満足しており、制度が地域に根付いて成功していると感じた。学校選択制により、各学校が特色ある教育や活動の提供に努めることは、地域全体の教育の質の向上にも寄与する。今後の学校のあり方について、参考にしたい。

視察の様子（令和6年度）

視 察 先 ① 1 0 月 3 0 日 北 海 道 苫 小 牧 市		苫小牧市障がい福祉課の職員の方にご説明をいただきました。
視 察 先 ② 1 0 月 3 1 日 北 海 道 石 狩 市		石狩市子ども政策課の職員の方にご説明をいただきました。
視 察 先 ③ 1 1 月 1 日 北 海 道 江 別 市		江別市学校教育課の職員の方にご説明をいただきました。

※この「視察の様子」のページは市議会事務局職員が作成しています。